

トラックの事故による**死亡者** **5年ぶり増加**

**タクシーやバスを含む事業用自動車の中で、
トラックの事故死は最多**

- ① 歩行者が**横断中**
- ② **追突**
- ③ **すれ違い時の衝突**

※ ガードレール、電柱など**工作物衝突が1.5倍**

- 小 型：**一時不停止、前方不注意**
- 中 型：**夜間のスピード超過、右折事故、歩行者への注意不足**
- 大 型：**漫然運転、対向車のスピード誤認、歩行者への注意不足**

2019年5月2日（木）14時33分

トラックの事故による死者数が2017年に298人に上り、16年より11人増えたことが、交通事故総合分析センター（東京都）や国土交通省の資料で分かった。トラック事故の死者数が**前年比で増加するのは5年ぶり**。

タクシーやバスを含む事業用自動車の中で、トラックの事故死は最多。

国交省は2020年に200人まで減らす目標を掲げているが、実現は容易ではなさそうだ。

同省は「**長期で見れば死者数は減っている**。目標に向かって対策を進める」としている。

トラックの死亡事故を分類すると、**歩行者が横断中**の発生が68件と最多。次いで他の車への**追突**41件、**すれ違い時の衝突**などが40件と続く。

ただ、17年は16年と比べて**ガードレールや電柱**といった**工作物衝突**など**単独事故が1.5倍**の45件に増えているのが目立つ。

死亡事故や重傷事故の特徴をトラックの大きさ別にまとめたところ、

小型では、**一時不停止**や**前方不注意**による事故が多かった。

中型は、**夜間の法定速度超過**が多い上、**右折時に対向車のスピードを誤認**したり、**歩行者への注意が不足**したりするケースが目立った。

大型では、**漫然運転**や、**対向車のスピード誤認・歩行者への注意不足**などが挙げられた。

トラックの交通事故件数は2011年以降毎年減少しており、2017年は17,986件。国交省は**2020年に12,500件**まで減らす目標を設定している。